

高校公民プリント（過去問類似）

日本の思想 No.7

名前

得点

/10

問1 浄土教の根本経典に説かれ、ある仏がすべての衆生を救うために立てたとされる四十八の誓願を何というか。この誓願では、その仏を信じて名号を称える者を一人残らず極楽浄土へ往生させることが約束されている。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 阿弥陀仏の本願 2. 阿弥陀仏の名号 3. 阿弥陀仏の浄土 4. 阿弥陀仏の誓願

問2 明治から昭和期にかけて活躍した博物学者の南方熊楠は、神社祭祀反対運動を指導したことで知られる。彼が、宇宙のあらゆる事象や道理が単一の因果関係にとどまらず、縦横無尽につながり合っている世界のあり方を表現した独自の概念図を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 南方曼荼羅 2. 大日本主義 3. 天皇機関説 4. 小日本主義

問3 平安時代中期、貴族中心であった仏教を庶民へと広める先駆者となった人物がいる。彼は京都の市中（市井）に入って人々に念仏を勧め、さらに道路や井戸の整備、無縁仏の火葬などの社会事業を行ったことから、「市聖」と呼ばれた。この人物として最も適当なものを答えよ。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 空也 2. 良忍 3. 源信 4. 法然

問4 明治期の思想家・文学者である夏目漱石は、日本の近代化について、西洋からの外発的な影響によって急激に進められたため、自己の内面から湧き出る内発的な発展を欠いていると批判した。このような、中身の伴わない日本の近代化のあり方を、彼はどのような言葉で表現したか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 皮相上滑りの開化 2. 外発的開化の受容 3. 内発的開化の進展 4. 自己本位の生き方

問5 平安中期の僧である源信は、著書『往生要集』において、阿弥陀仏や極楽浄土の姿を心の中で克明に思い浮かべる修行方法を重視した。のちに法然らが広めた、口頭で仏の名を唱える方法とは異なり、心の中での観想を主とするこの修行方法を何というか。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. 観相念仏 2. 称名念仏 3. 口称念仏 4. 専修念仏

問6 戦後の日本において、近代社会を支える自立的な主体性の確立を思想的課題として掲げた政治学者は、日本の思想史において中核となる伝統が形成されず、外来の思想が次々と流入しては並存している状況を批判した。このような歴史的な一貫性や体系性を欠いた思想のあり方を「雑居」と表現し、主体的な知的伝統の欠如を指摘した人物は誰か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 大塚久雄 2. 鶴見俊輔 3. 吉本隆明 4. 丸山真男

問7 明治期において、自由民権運動などの現実政治に挫折した後、文学の世界に転じた人物である。雑誌『文学界』を創刊し、現実の「実世界」に対して、自己の「内部生命」の要求や精神の自由を重んじる「想世界」を追求した、近代日本におけるロマン主義の先駆者となった詩人・評論家は誰か。 (2022年 全国公立入試 類似)

1. 北村透谷 2. 坪内逍遙 3. 国木田独歩 4. 二葉亭四迷

問8 キリスト教思想家の内村鑑三が、日清戦争を「義戦」として肯定した立場から一転し、日露戦争の開戦前夜にキリスト教の人道主義的立場から一貫して戦争に反対するために唱えた主張を何というか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 主戦論 2. 非戦論 3. 義戦論 4. 講和論

問9 古代の日本人は、自然を恵みをもたらすものであると同時に、時に猛威を振るう脅威としても捉えていた。このような自然に対する畏怖から、神には二つの側面があると考えられた。このうち、天変地異や疫病などの災いをもたらす、神の荒々しく破壊的な側面を表す概念を何というか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 荒魂 2. 奇魂 3. 和魂 4. 幸魂

問10 主客未分の「純粹経験」を唯一の現実とし、そこから独自の思索を展開した日本の哲学者は、人間が日常の中で経験する悩みや行き詰まりといった「人生の悲哀」を、宗教や哲学の問いの根底にあるものと位置づけた。この人物は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 和辻哲郎 2. 井上哲次郎 3. 西田幾多郎 4. 清沢満之

答え合わせ・解説 No.7

問1	答え 1 阿弥陀仏の本願	浄土教思想において、阿弥陀仏は『無量寿経』に記された四十八の誓願（本願）を立てたとされる。その中心は、阿弥陀仏を信じてその名号（南無阿弥陀仏）をひたむきに称えるすべての衆生を、一人残らず極楽浄土へ往生させるという救済の約束である。法然や親鸞などの鎌倉仏教の思想家たちに決定的な影響を与えた。
問2	答え 1 南方曼荼羅	南方熊楠は、エコロジー思想の先駆者としても評価される博物学者・民俗学者である。彼は、宇宙の森羅万象が複雑に絡み合い、つながり合っている様子を、仏教の密教思想にヒントを得て図示し、世界のあり方を説明しようとした。この図は彼の名をとって南方曼荼羅と呼ばれ、近代科学の限界を超える有機的な世界観を示したものとして注目されている。
問3	答え 1 空也	平安時代中期に活躍したこの人物は、国家や貴族のための仏教から離れ、市井の庶民に対して念仏を広めた。また、実生活における社会事業（道路や井戸の整備、無縁の死骸の火葬など）を精力的に行ったことから「市聖（いちのひじり）」と称され、後の鎌倉浄土教の先駆的な役割を果たした。一遍（捨聖）や源信（往生要集の著者）などと区別することが重要である。
問4	答え 1 皮相上滑りの開化	講演「現代日本の開化」において、西洋の開化が「内発的」であるのに対し、日本の開化は「外発的」であり、急激な近代化のなかで自己を見失っている状態をこのように表現した。
問5	答え 1 観相念仏	源信は『往生要集』において、極楽往生を遂げるための具体的な方法として、阿弥陀仏の姿や極楽浄土の情景を心の中で鮮明に思い描く修行を重視した。これは、のちに鎌倉仏教において法然が提唱した、口頭で「南無阿弥陀仏」と唱える口称念仏とは区別される。
問6	答え 4 丸山真男	丸山真男は、日本の思想史において過去の思想を主体的に止揚する知的伝統が欠如していることを批判した。彼は、外来の思想が次々と入ってきては並存する「雑居」状態にあると指摘し、近代的な自立した個人の主体性を確立することの重要性を説いた。
問7	答え 1 北村透谷	自由民権運動の挫折後、キリスト教の影響を受けつつ、内面的な精神の自由を追求した。彼は、功利的な現実社会（実世界）に対抗して、人間の内なる精神世界（想世界）や「内部生命」の尊厳を主張し、雑誌『文学界』を通じてロマン主義文学の先駆的な役割を果たした。
問8	答え 2 非戦論	内村鑑三は、日清戦争の経験を経て戦争の悲惨さと国家の利己主義を痛感し、日露戦争に際してはキリスト教の信仰に基づき、いかなる戦争も悪であるとする絶対的な立場を主張しました。この主張は、幸徳秋水や堺川らの社会主義的な立場からの主張とともに、当時の主戦論に対抗するものとなりました。
問9	答え 1 荒魂	古代日本の神観念において、神は作物の豊穰などの恵みをもたらす「和魂」としての側面と、自然の脅威や災害などの災いをもたらす「荒魂」としての側面の両面（神意のあらわれ）を持つと信じられていた。荒々しく猛々しい神の働きを「荒魂」と呼び、これを鎮めるために祭祀が行われた。
問10	答え 3 西田幾多郎	主客未分の「純粹経験」を哲学の出発点とし、のちに「場所の論理」などを展開した哲学者は西田幾多郎である。彼は、人間が生きる中で直面する悩みや行き詰まり（人生の悲哀）を、宗教や哲学の問いの根源に据えた。これは、自己の存在を深く見つめ直す自問自答の営みであり、他者への問いかけと同様に、自己自身に対する内的な問いかけであるとされる。